

News Letter

慶應義塾維持会

2008年8月
No.1

維持会員の皆様、日頃は慶應義塾維持会にご協力を賜りまして、心より御礼申し上げます。

ご存知のとおり、維持会は福澤先生の没年、1901年に、師の学問を継承して義塾の存続と発展を願わんとする義塾社中が参画し結成されました。爾来、維持会は百余年にわたり、社中協力の礎となり、義塾の発展を側面より支え続けています。

現在、維持会員数は約43,000名、会員皆様のご厚志により維持会基金残高は約24億円になりました。2007年度からは維持会基金の運用果実により「慶應義塾維持会奨学金」を新設し、維持会独自の奨学金として経済的に修学困難で成績優秀な塾生に対して奨学金を支給することとし、義塾の奨学制度をよりいっそう充実いたしました。このたび、維持会の活動を会員の皆様にお伝えするために、「慶應義塾維持会News Letter」を発行いたしました。ご高覧いただければ誠に幸甚に存じます。

未来を担う活力溢れる塾生を育むために、また創立150年記念の年を迎えた慶應義塾が新たな飛躍をするために、維持会員の皆様におかれましては、変らぬご支援をお願いいたします。



慶應義塾維持会会長
慶應義塾評議員会議長

福澤 武

「慶應義塾維持会奨学金」の新設について

近年、経済的理由により学業の継続が困難になる学生が増えている現状を踏まえて、学生サポートを主眼に維持会では、平成19年度から「慶應義塾維持会奨学金」を新設しました。この奨学金は、全国の優秀な学生に義塾で学んでもらう手立てのひとつとして地方出身者を優先採用とした、維持会独自の奨学金です。支給額は、1名あたり第1種60万円、第2種30万円とし、初年度採用者は43名。2年目の今年は、総額3,000万円の予算で既に53名の採用が決定されています。採用者には、維持会へのメッセージ(裏面掲載)を必須としており、今年7月の維持会常任委員会には懇話会の場を設け、維持会員の代表である常任委員の方々へ、直接、感謝の気持ちや今後の進路・抱負を伝えてもらいました。この奨学金設立により、将来塾員となる塾生に維持会の存在と社中協力の基本理念を紹介し、卒業後の維持会加入へ結びつくことを望んでいます。会員の皆様には、塾生の学生生活を応援するために、引き続きご協力をお願いできれば幸いです。

▼ 常任委員会懇話会の様子(7/22)



■平成19年度収支決算

維持会員の皆様には、平素より格別のご支援をいただき、誠にありがとうございます。平成20年7月22日開催の維持会常任委員会におきまして、平成19年度維持会収支決算の報告をいたしましたので、下記のとおりお知らせします。

1 収入の部

新規入会595件、継続7,315件、計7,910件の寄付金と維持会基金運用収入により、320,157千円(前年度比81,496千円増)となりました。

2 支出の部

「維持会は慶應義塾の維持及び発展に寄与することを目的とする」(維持会規程第2条)に従い、平成19年度維持会事業費(総額51,238千円)の内容は次のとおりです。その他、会員各位への「三田評論」贈呈経費、会員募集等に要する事務経費として、23,968千円を支出しました。

1. 奨学支援事業 14,700千円
19年度新設した「慶應義塾維持会奨学金」として充当。
2. その他の支援事業 36,538千円
創立150年イベントとして全国的に行っている慶應義塾創立150年記念講演会「学問のすゝめ21」(総事業費約54,000千円)に充当。

3 慶應義塾維持会基金残高

2,461,472千円
(前年度比84,227千円増)

